

令和元年度 学校評価 総括評価表

徳島県立徳島聴覚支援学校

徳島聴覚支援学校の経営方針

(1) 徳島県教育の基本方針

とくしまの未来を切り拓く，夢あふれる「人財」の育成

「徳島ならではの」教育により，大きな夢や高い目標をもって，困難にぶつかっても挑戦し続け，未来を切り拓いていく，本県の宝である「人財」の育成を目指します。

(2) 徳島聴覚支援学校の使命

徳島聴覚支援学校は徳島視覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校として，両校が「つながる」を合い言葉に連携・協働し「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに，県内唯一の聴覚障がい教育，視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし，「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進する。

(3) 私たちが目指す学校

私たちは，聴覚障がいについて正しく理解し，子ども一人一人の個性を大切にして，日本語習得を基盤に据えた人間形成のための教育を進めます。

(4) 本年度の具体的な目標

- ① 人権意識に基づく幼児・児童生徒指導の徹底を図ります。
- ② 幼稚部から高等部の縦のつながりを大切にした活動をとおして，他者とよりよくかかわる力を育てます。
- ③ 日本語で指導できる力を高めるために，教職員の指導力を向上させます。
- ④ 関係機関と連携をとりながら，聴覚障がいに対する専門的な支援を行い，聴覚障がいや本校の理解啓発に努めます。
- ⑤ 発達の段階に応じた勤労観を身に付けるため，日常生活や職業体験，進路指導等を充実させます。
- ⑥ 保育や授業等，寄宿舎生活をとおして得られた幼児・児童生徒の成長を保護者と共有し，連携を深めます。
- ⑦ 併置する徳島視覚支援学校や地域と連携し，防災避難施設としての役割を充実させます。
- ⑧ 会議や業務の効率化・精選により，授業準備の時間の確保と，教職員の時間外勤務の短縮に努めます。

【幼稚部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
日本語で思考できる力を高めるために、教職員の指導力を向上させます。 【③】	幼児の語彙を増やす、言葉の概念を形成する、思考を促すことに留意した問いかけ、言葉かけの方法を身につける。	活動計画 ①絵日記指導に関する研修を行う。 ②保育の様子を撮影したビデオを元に研修を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	
		評価指標 ①年5回以上、幼児の絵日記を活用してグループ討議、ロールプレイ等を用いた研修を行う。 ②年5回以上、保育中のビデオを視聴し、良い点、改善点について話し合う時間を設ける。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【小学部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
日本語で思考できる力を高めるために、教職員の指導力を向上させます。 【③】	日本語で思考できる力を高めるための教材教具の開発と、その活用方法について学部全体で共有し指導力を高めることができるよう取り組む。	活動計画 ①児童の課題を分析する。 ②学部研修を行い、グループに分かれて児童の課題に応じた教材教具を作成する。 ③作成した教材教具を使って模擬授業を行ったり、授業に活用したりする。言語力や発達段階に応じた教材教具を共有できるようにする。 ④3学期に J.coss（日本語理解テスト）を実施し、評価をする。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		評価指標 ①5月までに児童一人一人の過去の検査結果を分析する。 ②月1回、グループ又は学部全員で研修会を行う。 ③2学期に模擬授業を行い、教材教具や指導法の改善を図る。 ④ J.coss（日本語理解テスト）において正答率が向上した児童の割合を80%以上にする。	(所見)		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【中学部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
発達の段階に応じた勤労観を身につけるため、日常生活や職業体験、進路指導等を充実させます。 【⑤】	職場体験や奉仕活動等の体験的な活動を通して、自らの生活課題を見つけると共に、適切な進路が選択できるような環境を整える。	活動計画 ①生徒の実態や希望に応じて、職場見学や職場体験を実施する。 ②①のことについてまとめさせ、職場体験発表会で発表できるよう指導する。 ③学校周辺清掃活動を行うなど、身近な奉仕活動を継続させる。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		評価指標 ①生徒の実態に応じて、それぞれ年間に1回職場見学や職場体験を行う。 ②校内の児童生徒、職員及び保護者を対象とした職場体験発表会を開催する。 ③学校周辺清掃活動を、学期に1回以上行うことができる。		(所見)	

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【高等部】

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
関係機関と連携をとりながら、聴覚障がいに対する専門的な支援を行い、聴覚障がいや本校の理解啓発に努めます。【④】	地域や近隣高校との関わりの中で、聴覚障がいや本校について、生徒が主体的に理解啓発を行うことができるよう指導する。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価		
		評価指標		(評定)	(所見)	

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【渉外・安全課】

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
併置する徳島視覚支援学校や地域と連携し、防災避難施設としての役割を充実させます。 【⑦】	学級・学部・寄宿舎・校務分掌等学校組織と保護者や地域等との連携を深め、防災学習の充実を図るとともに、防災避難施設としての機能を増やす。	活動計画 ①地域と連携した「合同防災学習」(午前の部)において、ハイゼックス米調理・煙体験・消火器体験・バケツリレー・防災工作の5つの活動を行う。 ②地域と連携した「合同防災学習」(午後の部)において、避難所運営ゲーム(HUG)を取り入れ、避難所配置図案を作ることができる。 ③②で作った図案を参考にしながら、間仕切り、段ボールベッド、トイレ等の組み立てを行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定)		
		評価指標 ①5つの活動を参加者(約100名)の90%が行うことができる。 ②参加者の全ての班で、視覚聴覚障がい者やその他の障がい者に配慮した、避難所配置図案を作ることができる。 ③参加者の全ての班で、防災グッズの組み立てをすることができる。		(所見)		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【生徒活動課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
幼稚部から高等部の縦のつながりを大切に活動を通して、他者とよりよく関わる力を育てます。【①】	全校を通して幼児・児童生徒が縦の関わりを持ち、上級学部学年は下級学部及び下級生へのいたわりや優しさの心を持ち、下級生は上級生との関わりの中でよりよい他者との関わり方が身につくように全教職員が支援する。	活動計画 ①全校もしくは2学部・3学部で合同給食タイムを実施する。 ②全校もしくは2学部・3学部でふれあい会（あそぶ会）を実施する。 ③小学部児童の中学部への体験入部を実施する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 評価指標 -----	
		評価指標 ①全校幼児・児童生徒が関わりのもてる行事を年1回以上実施する。 ②企画実施後に児童生徒対象に事後アンケートを行う。幼児については担当学部教員または保護者に感想を聞く。結果については、各学部で共通理解し、次回への指標とする。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【人権・キャリア教育課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
人権意識に基づく 幼児児童生徒指導 の徹底を図ります。 【①】	人権に関する研修会を通して、 人権を尊重し、いじめを自分の こととしてとらえ、生活を改善 していける、幼児・児童生徒を 育てる。	活動計画 ①人権に関する教職員対象研修会等を開催 する。(9月) ②人権に関する生徒対象講演会・映画会等 を開催する。(12月) (7月)	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	
		評価指標 ①人権に関する職員研修会等を年間1回以 上開催し、アンケートにおいて80%以上 の満足度を得る。 ②人権に関する生徒対象講演会等を1回以 上実施し、アンケートにおいて80%以上 の満足度を得る。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【サポート課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
関係機関と連携をとりながら、聴覚障がいに対する専門的な支援を行い、聴覚障がいや本校の理解啓発に努めます 【④】	①医療機関と連携をとりながら聴覚管理を行う。 ②本校教員に対し、聴覚障がいについての理解啓発を行う。 ③地域に在籍している難聴児童生徒の担任に対し、聴覚障がいについての理解啓発を行う。	活動計画 ①-1 耳鼻科相談時に校医と聴覚管理担当者が情報交換を行う。 ①-2 聴力低下や変動の疑いがあり通院する時は、保護者に説明を行い、学校での測定結果や様子が医療機関に伝わるようにする。 ②職朝イントラネットにおいて聴覚障がいに関するトピックスを紹介し、理解啓発を行う。 ③夏季補聴相談来校時に、聴覚障がいについての理解啓発を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	
		評価指標 ①-1 年間3回の耳鼻科相談すべてにおいて情報交換を行う時間を設ける。 ①-2 幼稚部・小学部は、保護者に測定結果を記載した紹介状を必ず渡す。また、中・高等部は、低下や変動についての説明を記載した測定結果を本人に必ず渡し、医療機関で説明ができるようにする。 ② 月に2回以上トピックスを更新する。 ③ 90%以上の担任に対し、担当する児童生徒の聞き取り検査の結果をもとに、聞き取りの様子について具体的な説明を行う。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【研究・情報課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
日本語で思考できる力を高めるために、教職員の指導力を向上させます。 【③】	様々な研修の場を設定し、教員の授業力の向上を図る。	活動計画 ①授業研究会を全校及び各学部で4回以上実施する。 ②公開保育・授業週間に教員間で授業参観を行い、自己の保育・授業に活かす。 ③幼・小・中・高等部の教員を対象に「保育・授業を行う上での基本姿勢」の自己評価を実施する。 ④各学部で手話研修を実施するとともに、手話の活用方法について検討する機会を持つ。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	
		評価指標 ① 80%以上の教員が研究授業の授業研究会に2回以上参加する。 ② 90%以上の教員が公開保育・授業の参観を行い、参観シートを授業者に提出する。 ③ 70%以上の教員が「保育・授業を行う上での基本姿勢」の今年度の重点項目の自己評価が4段階の3以上になる。 ④手話表現をするときの留意事項をまとめる。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【寄宿舍】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
寄宿舍生活を通して、得られた幼児・児童生徒の成長を保護者と共有し、連携を深めます。 【⑥】	寄宿舍生活を通して、舎生同士が共に力を合わせて取り組んだ活動の成果を保護者と共有し、連携を深める。	活動計画 ①日々の舎生の様子を保護者と共有し、保護者会を通じて、信頼関係や連携を深める。 ②毎月1回、舎生同士が主体的に相談・立案した活動を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	
		評価指標 ①寄宿舍保護者会を年間3回以上実施する。 ②-1 毎月1回以上、自治会役員を中心に舎生同士で活動内容の話し合いを行う。 ②-2 アンケートを実施し、「友達と相談して計画することができた」の項目において80%以上の達成率を得る。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった